



Ten colors ～自分色～

令和8年9月1日 発行 NO.6

認定こども園にちなん十色

TEL (0859)-82-0626 FAX (0859) -82-0520

Male address s 0310@town.nichinan.lg.jp



「教育」から「学育」へ、失敗を恐れない心を

朝夕の風に少しずつ秋の気配が感じられる季節となりました。今月は、当園が大切にしている「失敗を保障する保育」について、全国保育協議会（全保協）の特集内容を交えてお話しします。

東大名誉教授の汐見稔幸先生は、本来の「**education（エデュケーション）**」は「教えて育てる」のではなく、「**子どもの可能性を引き出す**」という意味であり、江戸時代にこれが「教育」ではなく「**学育**」と訳されていれば、日本の教育観は大きく変わっていただろうと指摘されています。

国の教育要領でも「直接指示を出すのではなく、環境を通じて体験させることが大切」と示されていますが、私たちは幼い頃から「**いかに上手に教えられるか**」「**全員が同じ到達点へ行くか**」という環境の中で育ってきました。そのため、私たち大人の心にも「**失敗＝悪いこと・避けるべきもの**」という価値観が深く染みついてしまっているのです。

私たちの意識変換のためにも、「失敗」ではなく「**未成**」（現在進行形で成功に向かっていく）や「**前進傷**」（前に進んだからこそその傷）など、自分なりの言葉を見つけることで、自分たちにしみついている失敗への価値観を捉え直していきましょう。

（例：「**のびしろ発見**」「**こころの筋トレ**」「**挑戦のごほうび**」「**お試しチケット**」「**未来の宝物**」）

当園のテーマ『しっばいは未来のたねまき』には、まさにこの思いが込められています。大人が先回りして失敗を防ぐのではなく、子どもがそこから自ら考え、工夫して立ち直るのをじっと待つ姿勢を大切にしています。今月も「あそびの伴走者」として、子どもたちの試行錯誤を温かく見守ってまいります。（※本コラムは、全保協『ぜんほきょう』No.400「『失敗』を保障する保育」の内容を参照しています。）

しっばいは
未来の
たねまき

日南町で育む非認知能力・行動指標 家庭アンケート調査より



今年度取り組んでいる「非認知能力・行動指標」について、ご家庭と園の目標を集計・分析しました。全体的な傾向をお知らせいたします。

【特に多く挙げた目標】

自制心（気持ちの調整、お友達への配慮）

メタ認知・自己効力感（失敗からの再挑戦、「やればできる」という自信）

発信力・挑戦する力（挨拶、自分の言葉での表現、前向きなチャレンジ）

【分析から見えてきたこと】

ご家庭では：日常生活における「身の回りの切り替えや感情のコントロール」

「自分の考えを持つこと」を大切に育まれています。

園では：集団生活という環境の中で、「他者の話を聞く」「協力する」「粘り強く取り組む」といった面が意識されやすい傾向にあります。

今後の取り組みに向けて

これからも、保護者の皆様としっかり思いを共有しながら、子どもたちの可能性と一緒に引き出していきたいと思います。引き続き、温かい見守りとご協力をよろしくお願いいたします。